

# 研究室生活を振り返って

花卉園芸学研究室学部修士課程 2年

井上 輝

柏の葉キャンパス駅周辺では、大規模な都市計画に伴う商業施設やマンションの建設が進み、日々その姿を変えています。そんな周囲の環境と同じく、変化を続ける柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室の今をお伝えします。

## 柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室の取り組み

柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室は、現在渡辺先生をはじめとした教職員と技術職員の方々に日々ご指導いただきながら、学生10名が研究と実践的技術の習得に励んでいます。

当研究室の大きな特徴の一つが、「研究の多様さ」です。学生の研究内容を紹介しますと、花色の生理的機構、園芸作物の耐乾性、生理障害の原因究明、薬用植物の利用・評価など幅広い研究をおこなっています。また、研究だけでなく、週に一度、「高度化セル成型苗生産利用システム」を利用した花苗の実践的技術の習得に励んでいます。播種から出荷まですべての生産工程について実技を通して学ぶと同時に、学んだ知識、経験を研究活動にどのように結び付け、実践していくかを考えながら作業に取り組んでいます。

今年は葉草園の改修が行われ、露地圃場が新たに設置されました。学生も改修初期段階から関わりました。何も無い更地から草刈りや耕耘などの土づくりから始め、畦作りや薬用植物の定植まで、一から圃場を作り上げるという貴重な経験を得ることができました。

葉草園の拡張に伴い、現在では、診療所の患者さんだけでなく、外部からの見学の方が訪れたりと多くの人に見ていただいています。

## 実践的教育を通して

私は、他大学から千葉大学の花卉園芸学研究室を希望し、入学しました。当研究室に入ってから、前の大学との違いにとっても驚きました。特に驚いたのが、「技術教育の充実さ」です。柏の葉キャンパスでは、実際に消費者の手に渡る商品を扱うという作業を通して、より実践的な技術教育を受けることができます。大学の授業の多くは、最先端研究・技術についての情報が多いのが現状ですが、柏の葉キャンパスでは、そのような知識を利用しながら植物と向き合うだけでなく、座学では学ぶことのできない収益性や販売、流通

技術について、経験を通して学ぶことができます。知識と経験が結びつくことで、研究へのアイデアの発生にも繋がっています。日々の灌水作業や実験植物の栽培にあたっては、学生間でお互いの専門知識を出し合いながら議論することで、新たな視点や自分自身では気がつかなかった考えや解決策を得ることができています。このように柏の葉キャンパスでの生活は、数々の経験から得られた情報を自身の中で熟考し、どのように還元していくかを導き出す、柔軟な思考力と積極的な行動力を身につけることができる良い機会となっています。

## 植物と人の関わりについて考える日々

柏の葉キャンパスで生活していると、様々な分野の方々との交流があります。柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室では、トウキやヨモギ、オタネニンジンなど機能性植物や屋上緑化の研究も行われています。そのため、薬学の先生や共同研究先の方々や共同作業を共にしたり、ゼミにおいて研究の話をさせていただくこともあります。また、花卉・苗生産部の取引先やO・B・O・Gなど多様な立場の方々とお話させていただく機会も多く、園芸学的な視点とは異なった視点での植物の話や、学生だけでは考えも至らなかった発想や価値観など、多様な視点や考え方に巡り合います。現在の花業界について学ぶとともに、「植物と人の関わり」について広い視野を持つことは、自身の知見を広め、より幅広い視野で物事を見る訓練になっていると感じています。

今後も花卉園芸学研究室の学生は、植物を通して様々な考え方や価値観に巡り合うことで、視野の拡大と自身の成長に繋がられるよう努力して参ります。今後とも皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

